

漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査  
飛島西海岸・赤川河口部（山形県）地域検討会報告書(案)

第 章 資料編



## 目 次

### 第 章 資料編

1. 調査の概要 .....	3
1.1 地点ごとの集計結果（飛島西海岸） .....	3
(1) 地点 1 .....	3
(2) 地点 2 .....	6
(3) 地点 3 .....	9
(4) 地点 4 .....	12
(5) 地点 5 .....	15
1.2 地点ごとの集計結果（赤川河口部） .....	18
(1) 地点 1 .....	18
(2) 地点 2 .....	21
(3) 地点 3 .....	24
(4) 地点 4 .....	27
(5) 地点 5 .....	30

## 第 章 資料編

### 1. 調査の概要

#### 1.1 地点ごとの集計結果（飛島西海岸）

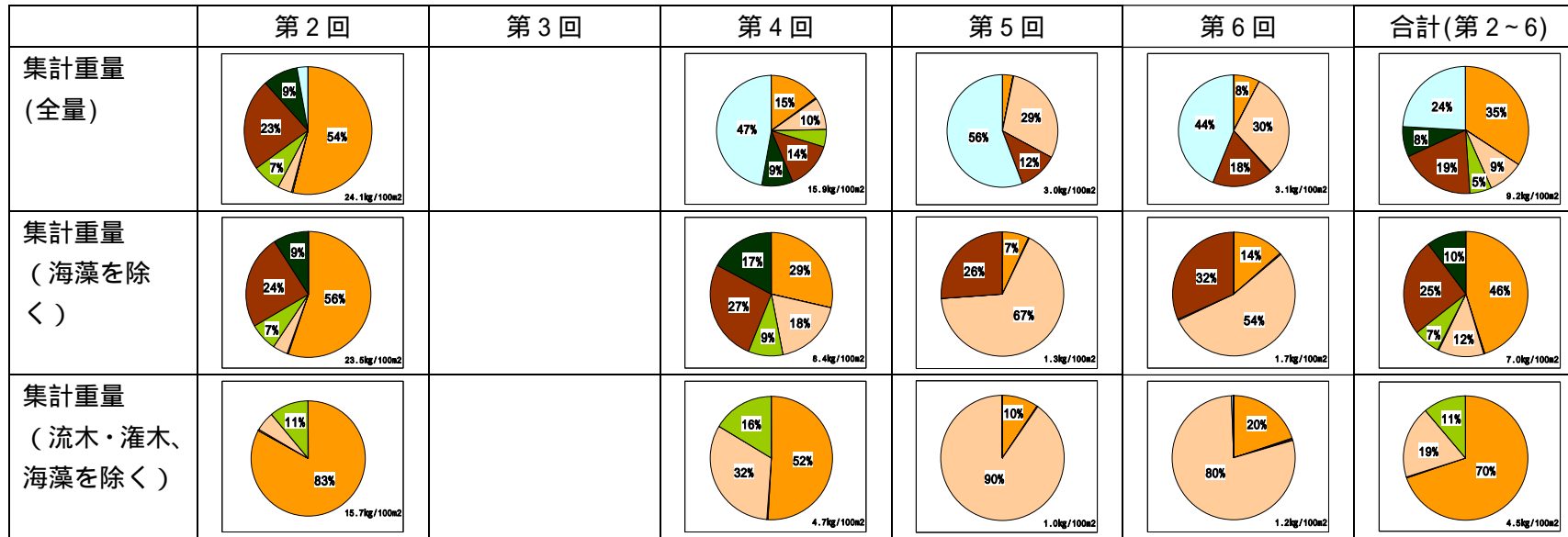
##### (1) 地点 1

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの枠内重量比率および容量比率を図 1.1-1、図 1.1-2 に示す。

当海岸（地点 1）は、第 2 回調査（2007 年 12 月）にはプラスチック類や流木・灌木が多かったが、第 4 回調査（2008 年 4 月）、第 5 回目（2008 年 5 月）、第 6 回目（2008 年 9 月）には海藻が多くなった。どの回も自然系が 1/3 から 2/3 を占めていた（上段）。

次に、海藻は通常、地元でも回収はされていないため、海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果は、プラスチック類の占める割合が第 2 回調査では高かったが、第 5 回調査および第 6 回調査ではガラス・陶磁器類が約 2/3 となった。また、重量比率で流木・灌木が約 1/3 から 1/4 漂着するのも特徴であった（中段）。

更に、自然系である流木・灌木も大量に漂着する、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻以外に流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）で比較を行った。その結果は、プラスチック類の占める割合が第 2 回調査の重量比率で約 80%、第 4 回調査でも約 1/2 となったが、第 5 回調査および第 6 回調査ではガラス・陶磁器類が約 80～90%となった（下段）。



凡例

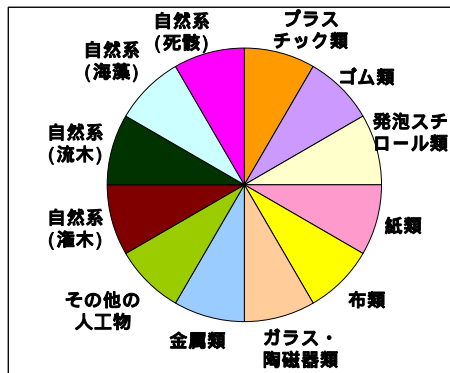
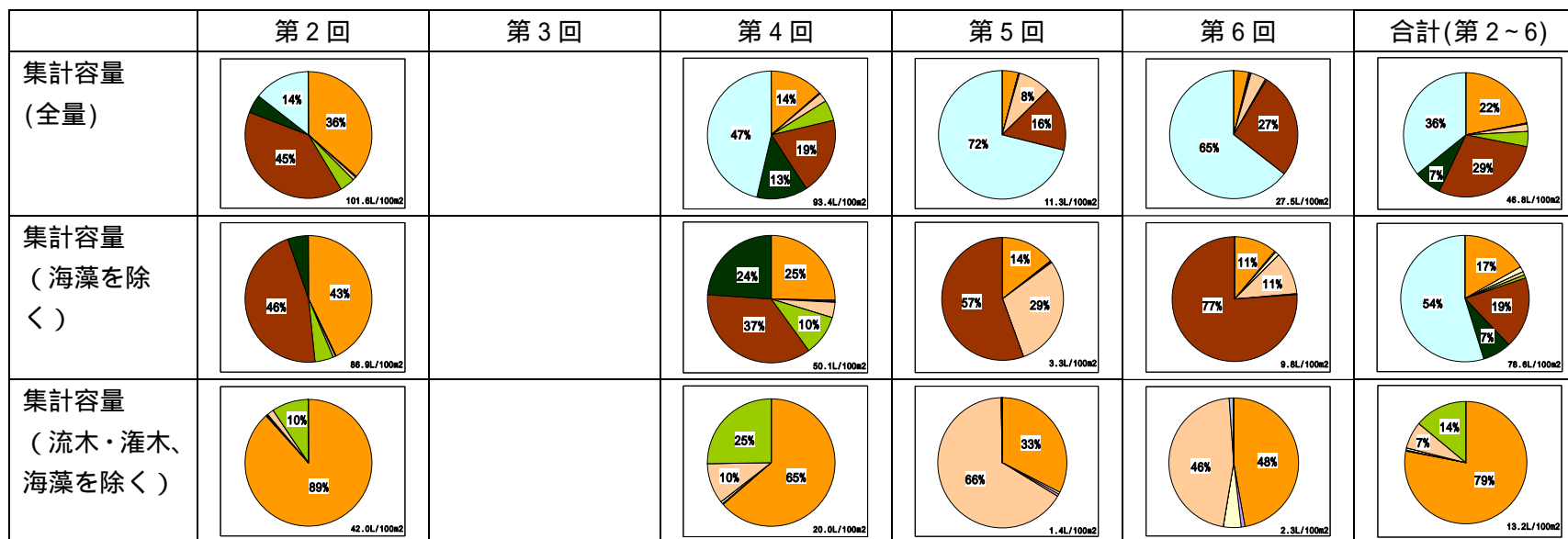


図 1.1-1 重量比率(地点1)



5

凡例

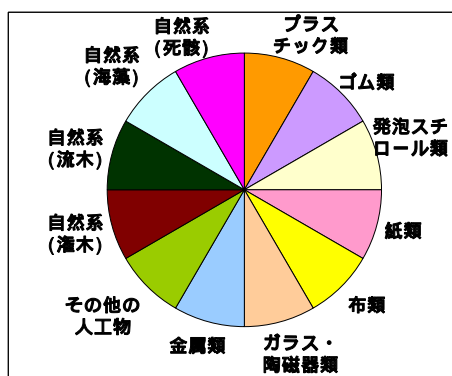


図 1.1-2 容量比率(地点1)

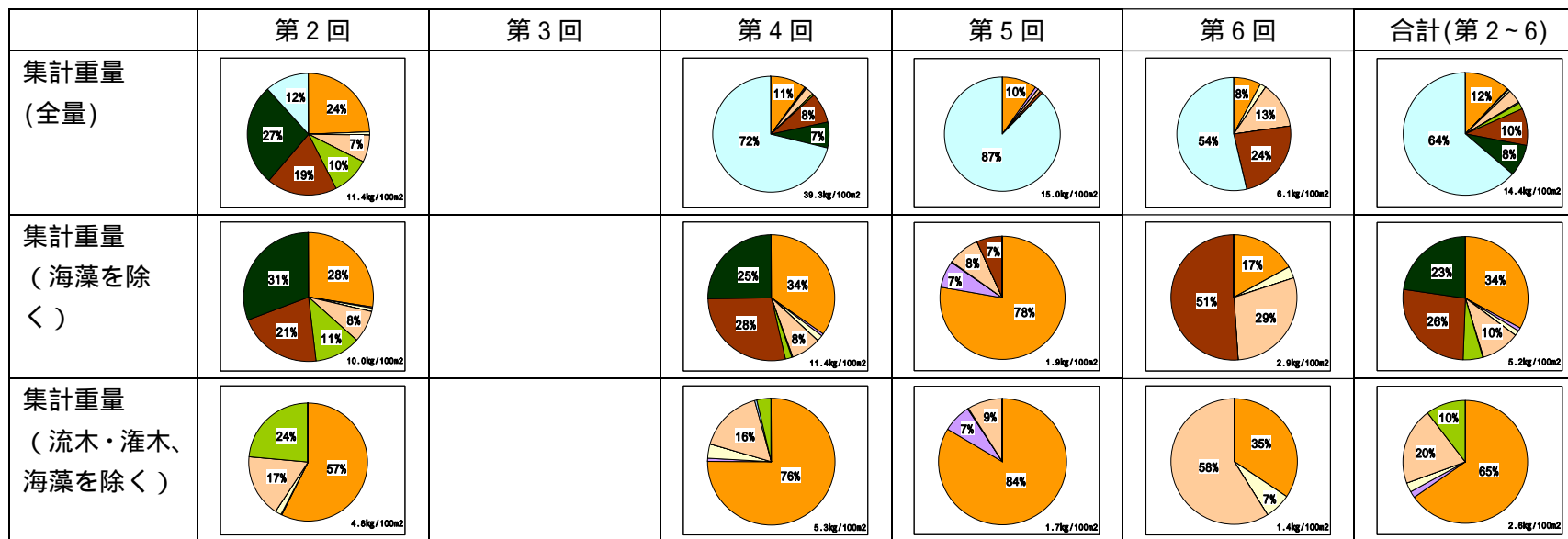
## (2) 地点 2

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの枠内重量比率および容量比率を図 1.1-3、図 1.1-4 に示す。

当海岸（地点 2）は、第 2 回調査には海藻が少ないが、第 4～6 回調査には海藻が多くなった（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、プラスチック類の占める割合が第 2 回調査の重量比率では約 1/4、第 4 回調査では約 1/3、第 5 回調査では約 3/4 となった。また、冬季を挟んだ第 2 回目および第 4 回目は、流木・灌木の重量比率が半数を超えた（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で自然系である海藻、流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）で比較を行った。その結果、プラスチック類の占める割合が第 2～5 回調査では約 60～80% を占めたことから、人工物のほとんどがプラスチック類、季節によってはガラス・陶磁器類である海岸と考えられる（下段）。



凡例

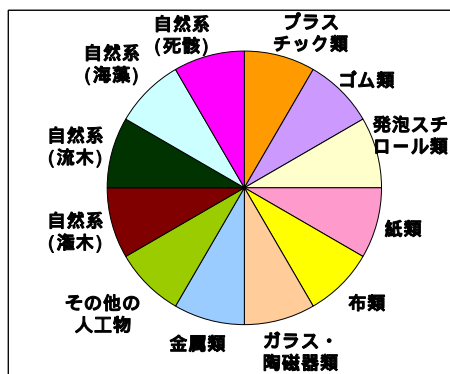
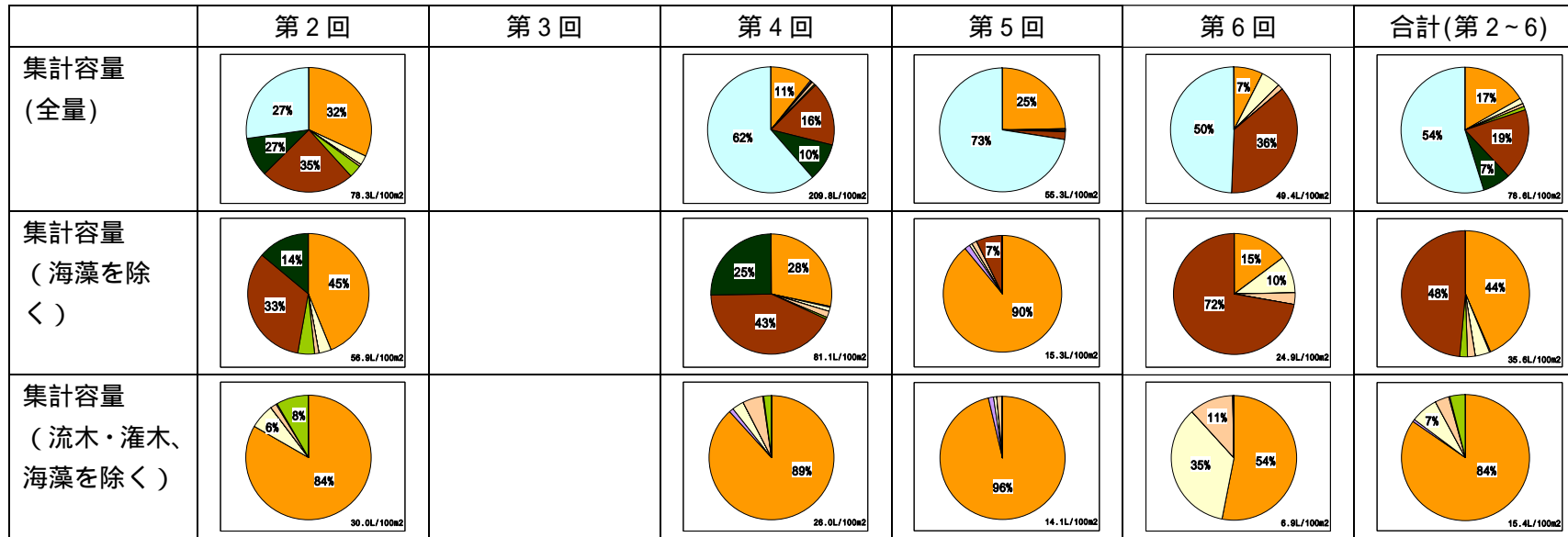


図 1.1-3 重量比率(地点2)





凡例

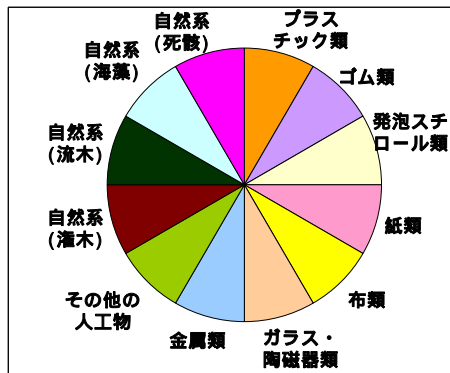


図 1.1-4 容量比率(地点2)

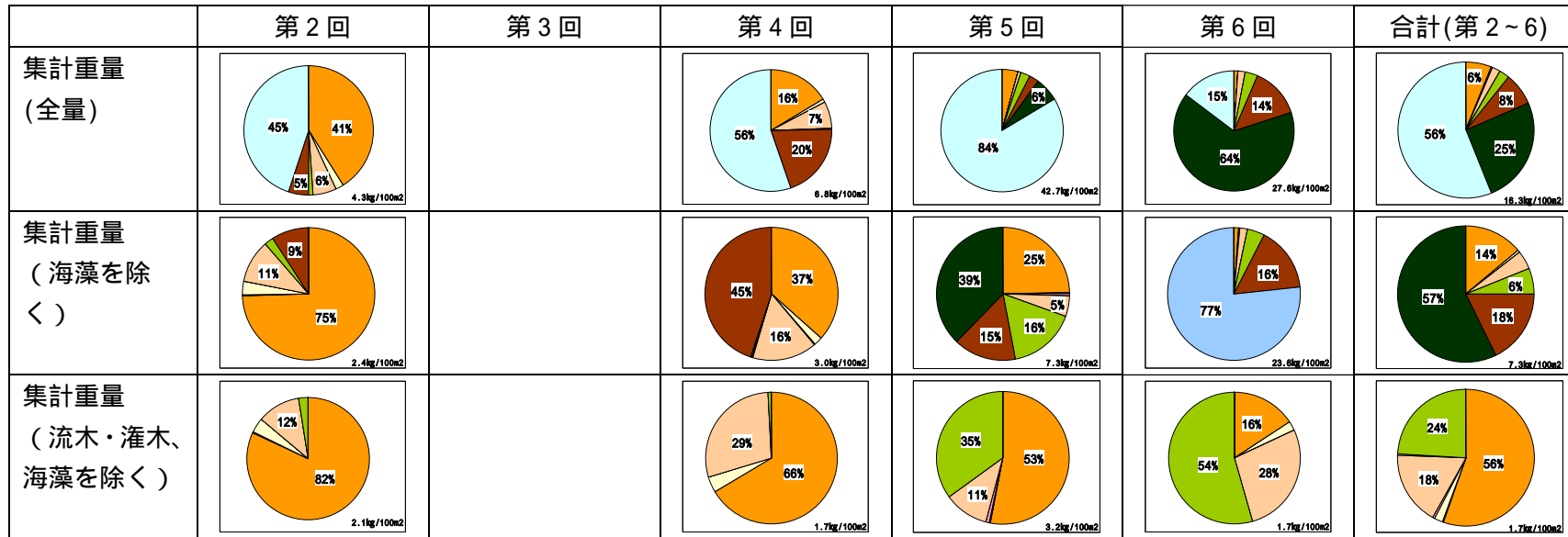
### (3) 地点 3

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.1-5、図 1.1-6 に示す。

当海岸（地点 3）は、各回とも海藻の割合が高くなった（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、第 2 回  
調査の重量比率でプラスチック類が多かったが、第 4 回調査および第 5 回調査では流木・  
灌木が、第 6 回調査では金属類が多くなった（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で自然系である海藻、流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）  
で比較を行った。その結果、プラスチック類の占める割合が第 2～5 回調査において約半分  
～80%を占めたことから、人工物のほとんどがプラスチック類である海岸と考えられる（下  
段）。



凡例

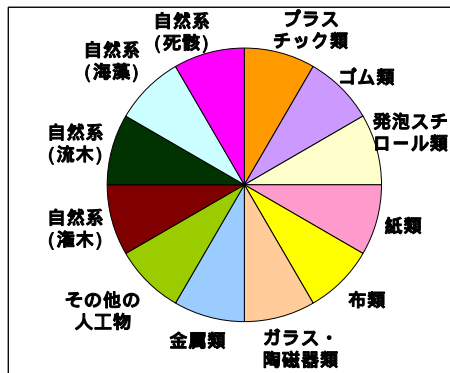
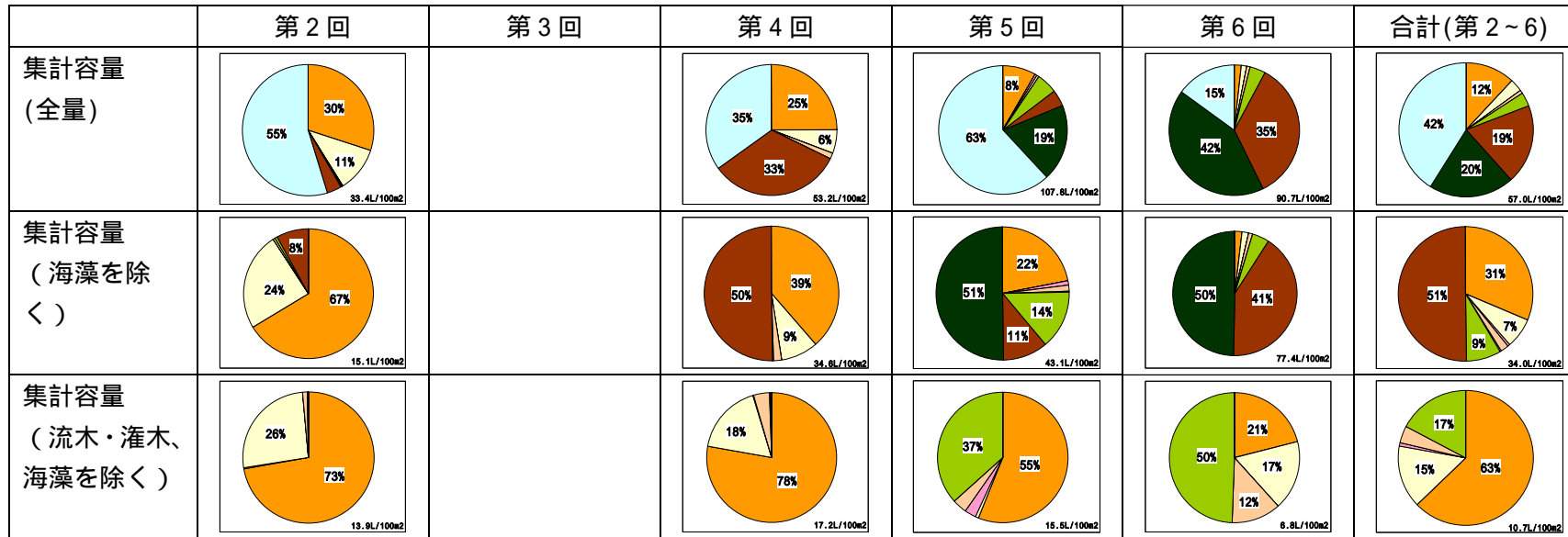


図 1.1-5 重量比率(地点3)



凡例

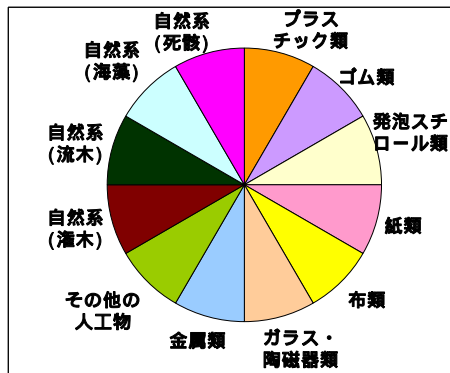


図 1.1-6 容量比率(地点3)

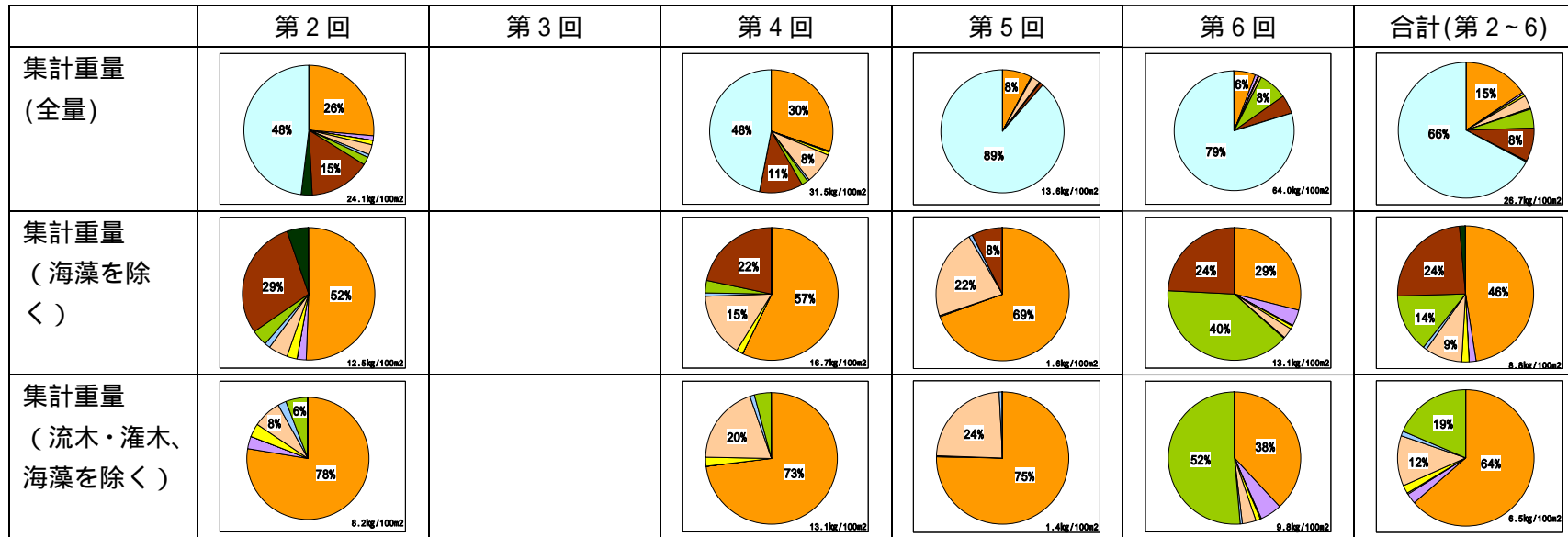
(4) 地点 4

第 2~6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.1-7、図 1.1-8 に示す。

当海岸（地点 4）は、各回とも海藻の割合が高くなった（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、第 2~4  
回調査の重量比率から見るとプラスチック類多くなったが、第 6 回目はその他の人工物（材  
木）の割合も高かった（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で自然系である海藻、流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）  
で比較を行った。その結果、プラスチック類の占める割合が各回とも約 1/3~4/5 を占めた  
ことから、人工物のほとんどがプラスチック類である海岸と考えられる（下段）。



凡例

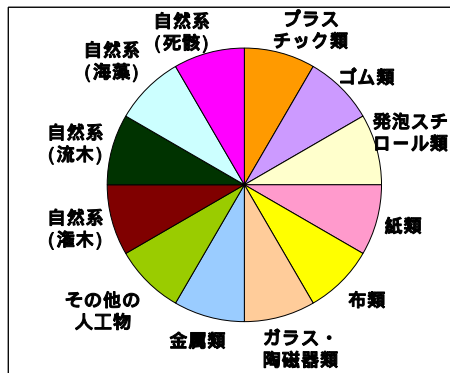
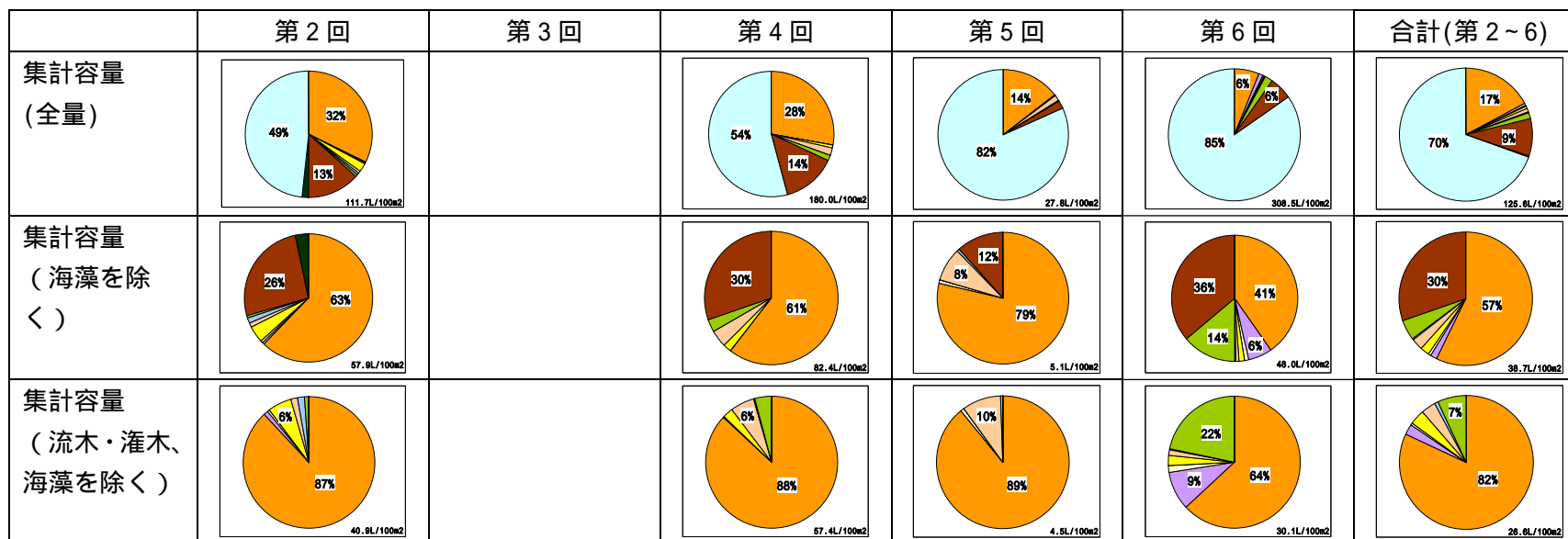


図 1.1-7 重量比率(地点4)



-14

凡例

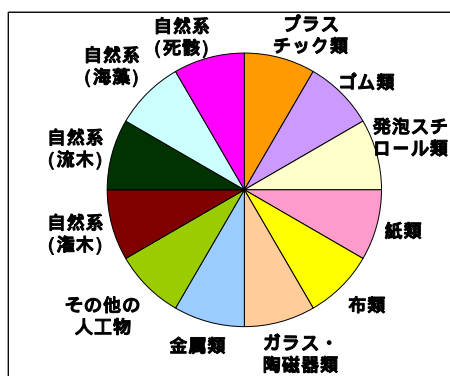


図 1.1-8 容量比率(地点4)

(5) 地点 5

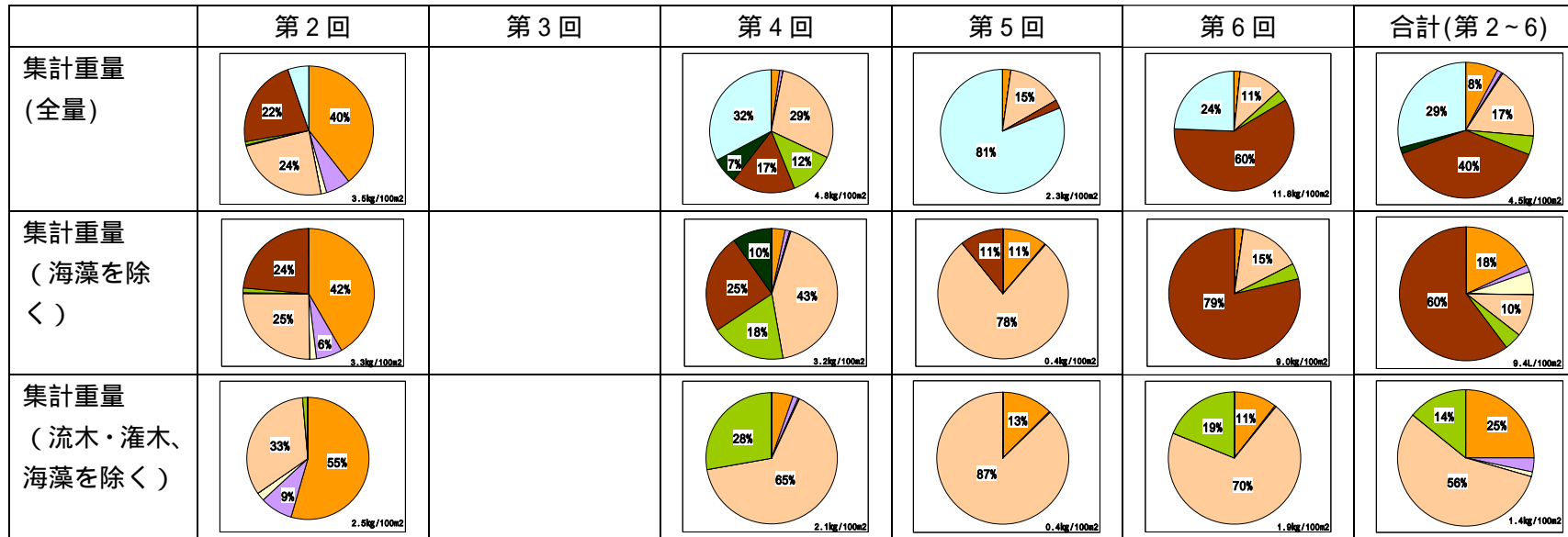
第 2~6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.1-9、図 1.1-10 に示す。

全量からみると、第 2、6 回調査には海藻が少ないが、第 4、5 回調査には海藻が多くな  
った（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、第 2 回  
調査以外は、プラスチック類が少なく、ガラス・陶磁器類の割合が高くなった。また、第  
6 回調査では灌木の割合が高くなった（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で自然系である海藻、流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）  
で比較を行った。その結果、第 2 回調査はプラスチック類が、それ以降はガラス・陶磁器  
類の占める割合が高い海岸である（下段）。





凡例

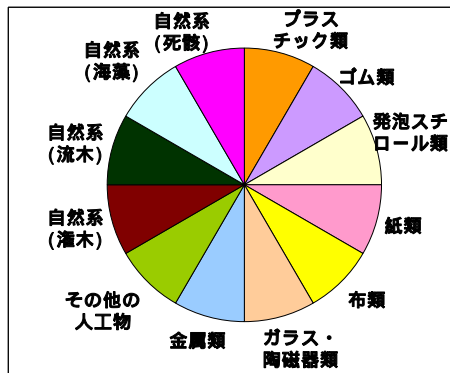
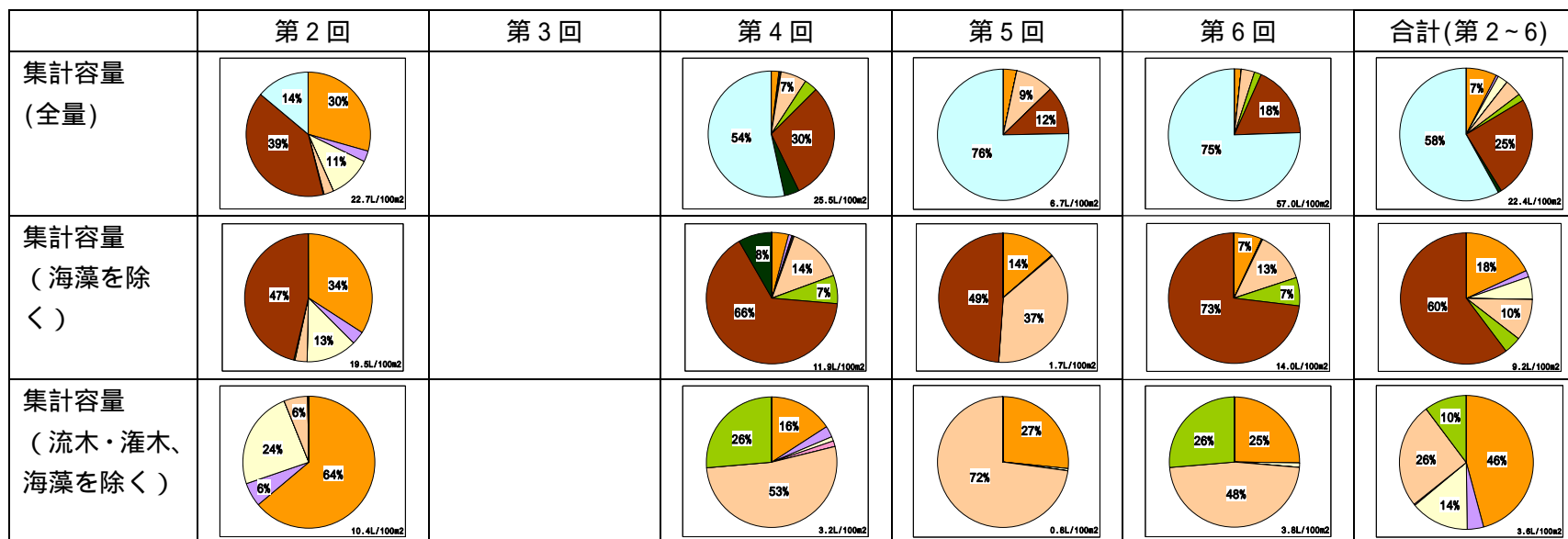


図 1.1-9 重量比率(地点5)



凡例

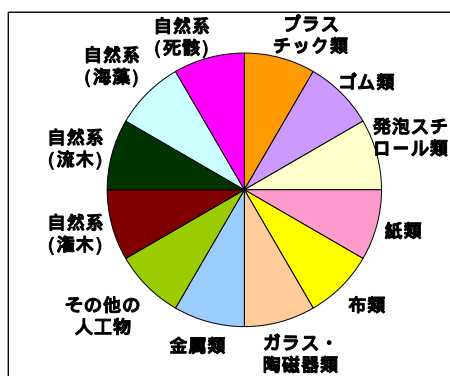


図 1.1-10 容量比率(地点5)

## 1.2 地点ごとの集計結果（赤川河口部）

### (1) 地点 1

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの枠内重量比率および容量比率を図 1.2-1、図 1.2-2 に示す。

当海岸（地点 1）は、第 2、4 回調査には流木や灌木が多いが、第 5、6 回調査には灌木が多く、両方をあわせた自然系で 7 割以上となった（上段）。

次に、海藻は通常、地元でも回収はされていないため、海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、上記の傾向と同様であった（中段）。

更に、自然系である流木・灌木も大量に漂着する、いわゆる災害時以外は回収されていないため、海藻以外に流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）で比較を行った。その結果、第 2、4 回調査は、材木などのその他の人工物が約 2/3 を占め、第 5、6 回はプラスチック類の占める割合が高くなった（下段）。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~6回)
集計重量 (全量)						
集計重量 (海藻を除く)						
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)						

凡例

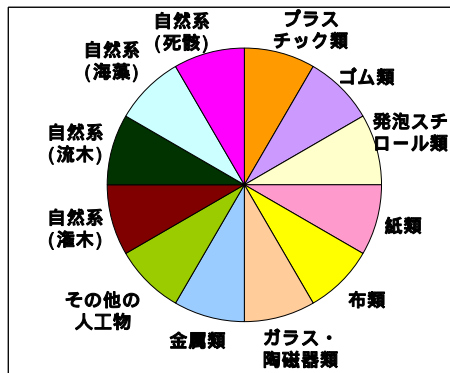
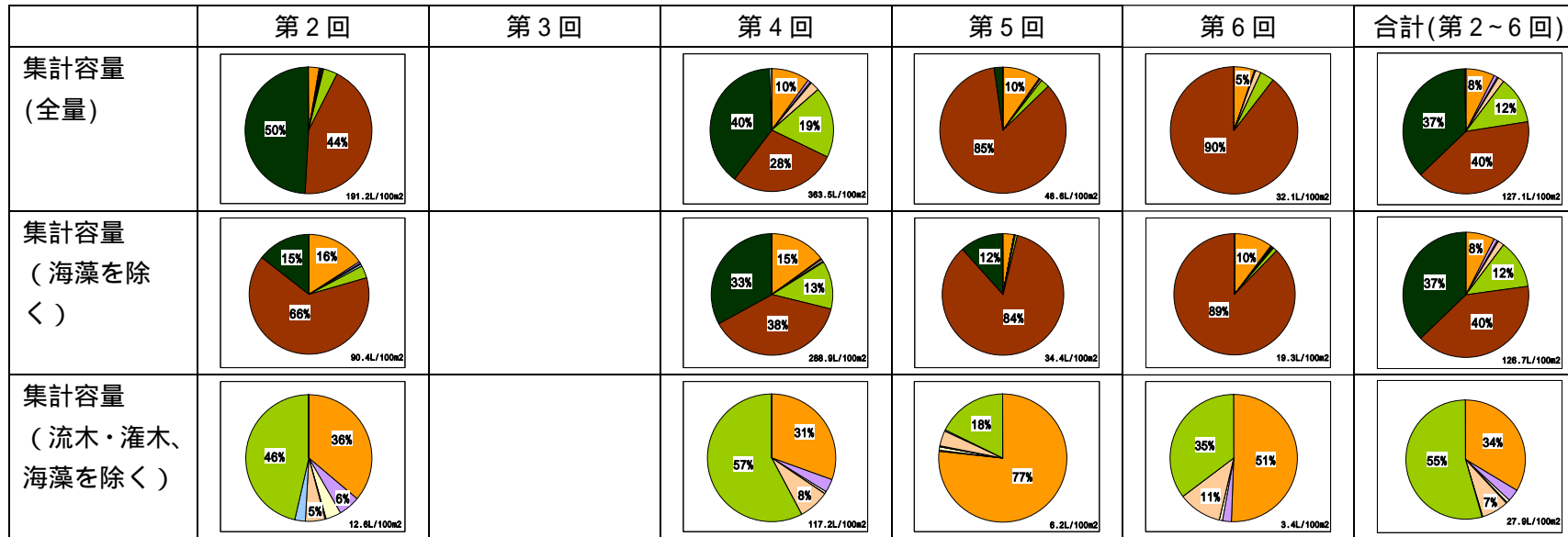


図 1.2-1 重量比率(地点1)



凡例

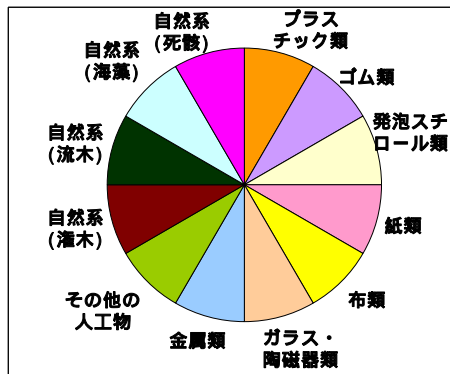


図 1.2-2 容量比率(地点1)

(2) 地点 2

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.2-3、図 1.2-4 に示す。

当海岸（地点 2）は、第 4 回調査には流木や灌木が多いが、第 2、5、6 回調査には灌木  
が多く、両方をあわせた自然系で約 8 割となった（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、上記の  
傾向と同様であった（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で海藻以外に流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）で比較  
を行った。その結果、第 4 回調査は、材木などのその他の人工物が約 2/3 を占め、第 2、5、  
6 回はプラスチック類の占める割合が高くなった（下段）。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~6回)
集計重量 (全量)						
集計重量 (海藻を除く)						
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)						

凡例

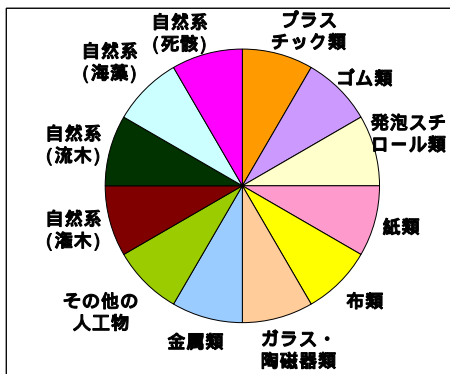
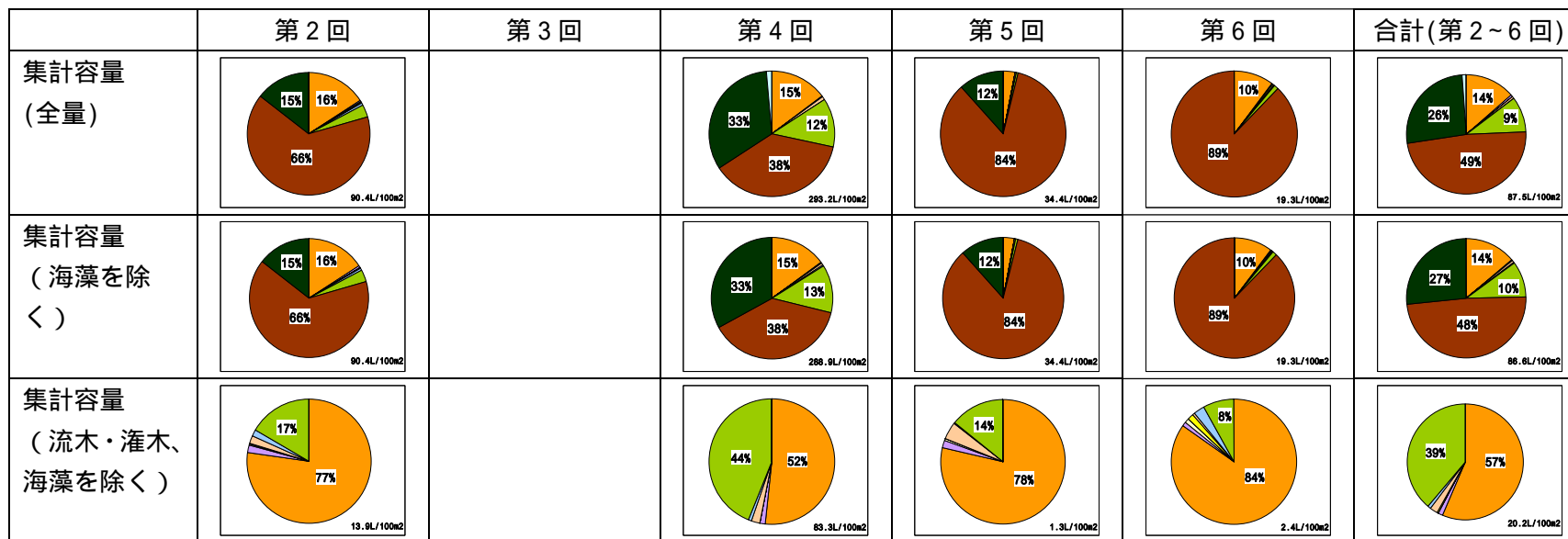


図 1.2-3 重量比率(地点2)



凡例

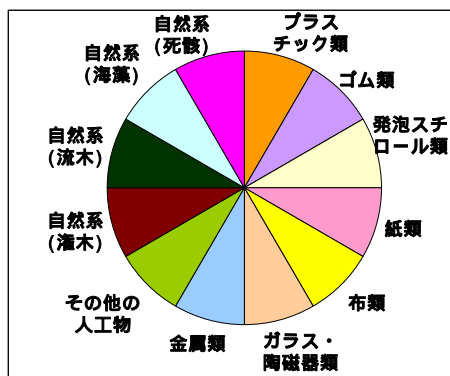


図 1.2-4 容量比率(地点2)



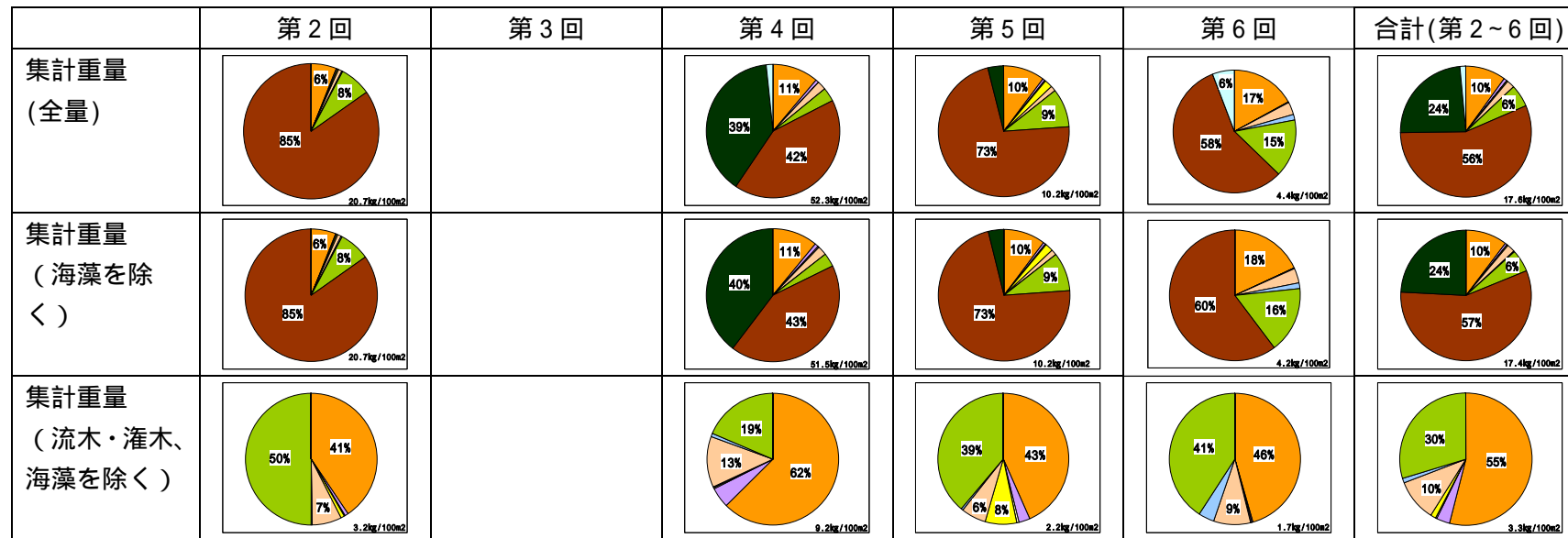
### (3) 地点 3

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.2-5、図 1.2-6 に示す。

当海岸（地点 3）は、第 4 回調査には流木や灌木が多いが、第 2、5、6 回調査には灌木  
が多く、両方をあわせた自然系で約 8 割となった（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、上記の  
傾向と同様であった（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で海藻以外に流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）で比較  
を行った。その結果、第 4 回調査は、材木などのその他の人工物が約半分を占め、第 2、5、  
6 回はプラスチック類の占める割合が高くなった（下段）。



凡例

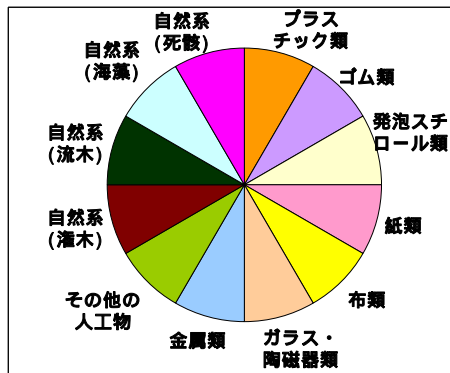
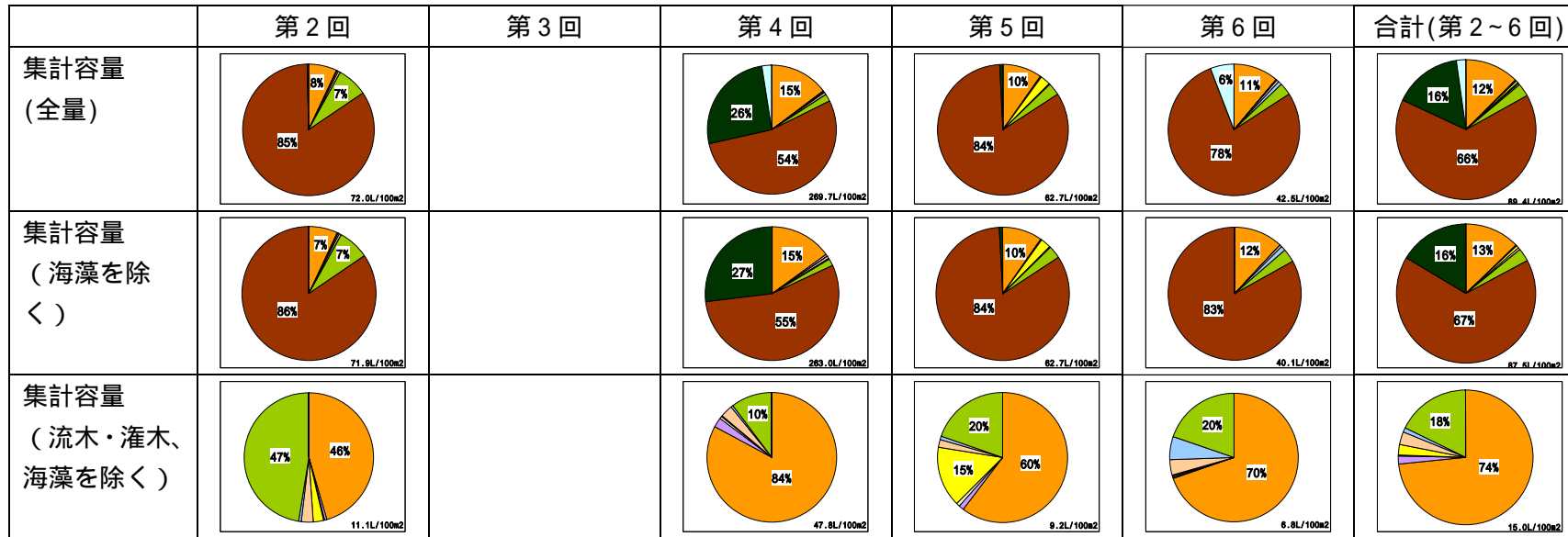


図 1.2-5 重量比率(地点3)



凡例

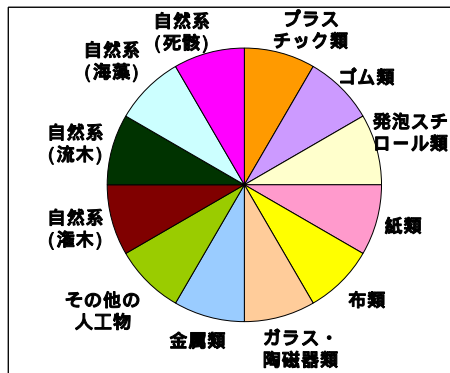


図 1.2-6 容量比率(地点3)

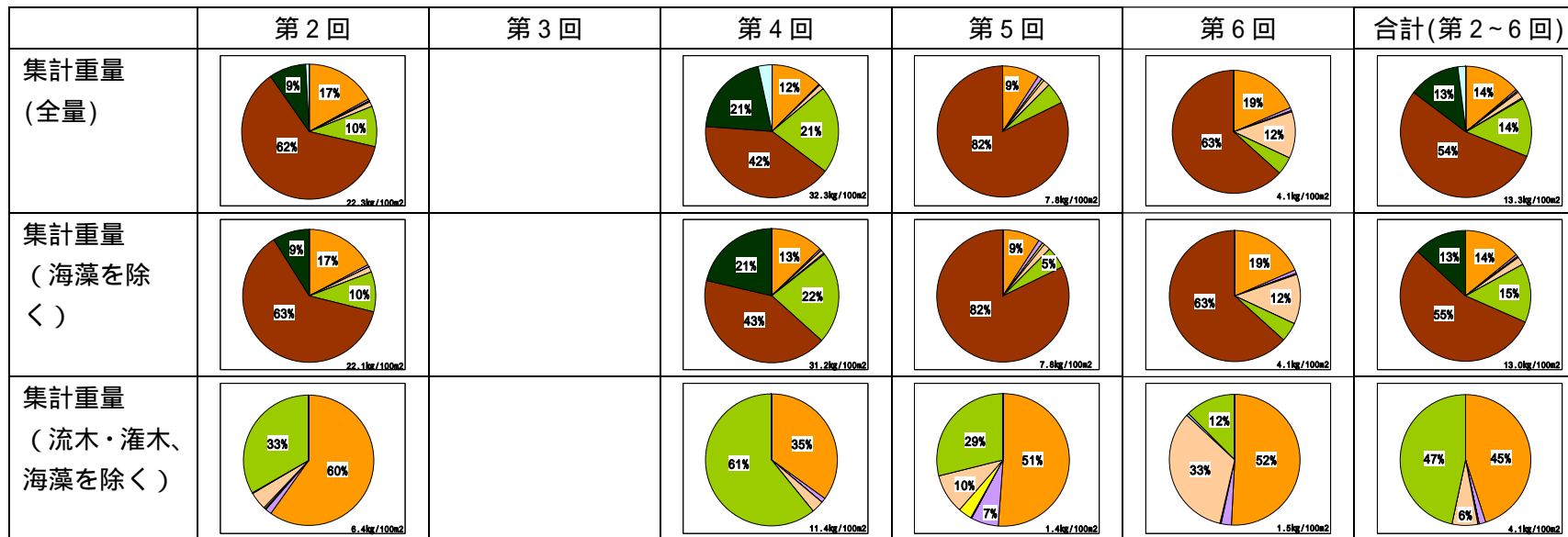
#### (4) 地点 4

第 2~6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.2-7、図 1.2-8 に示す。

当海岸（地点 4）は、各回調査ともに灌木が多く、流木と灌木の両方をあわせた自然系  
で約 7 割となった（上段）。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、上記の  
傾向と同様であった（中段）。

更に、地点 1 と同様の理由で海藻以外に流木・灌木を除いた漂着ゴミ（人工物）で比較  
を行った。その結果、第 4 回調査は、材木などのその他の人工物が約 2/3 を占め、第 2、5、  
6 回はプラスチック類の占める割合が高くなった（下段）。



凡例

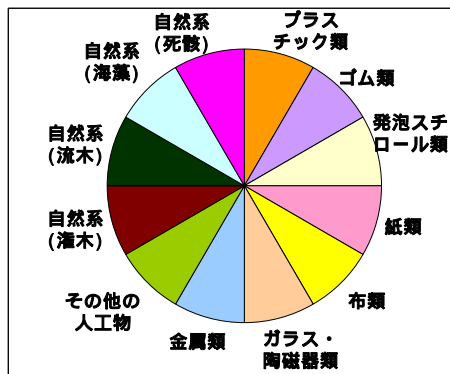
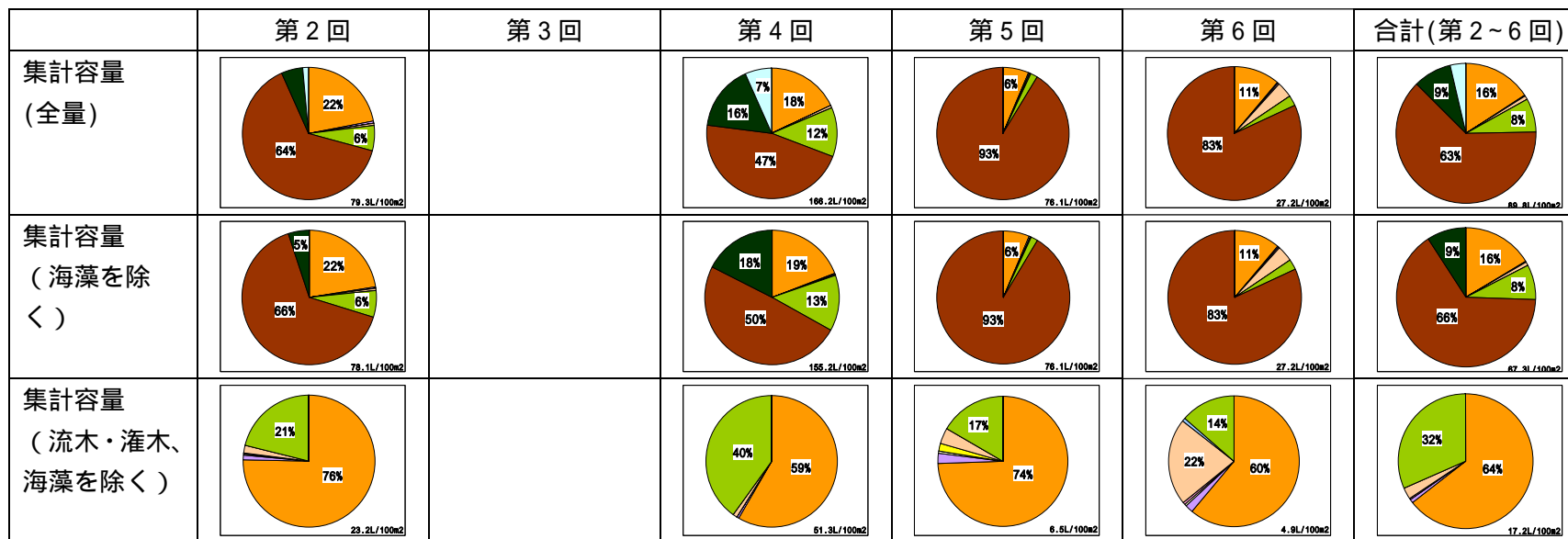


図 1.2-7 重量比率(地点4)



凡例

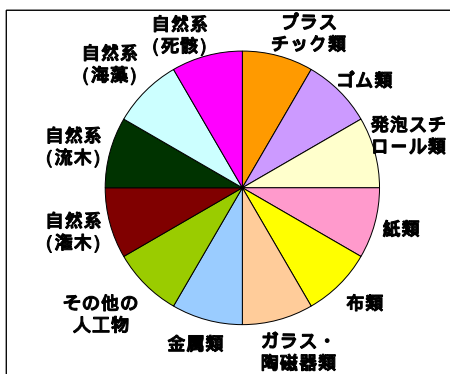


図 1.2-8 容量比率(地点4)

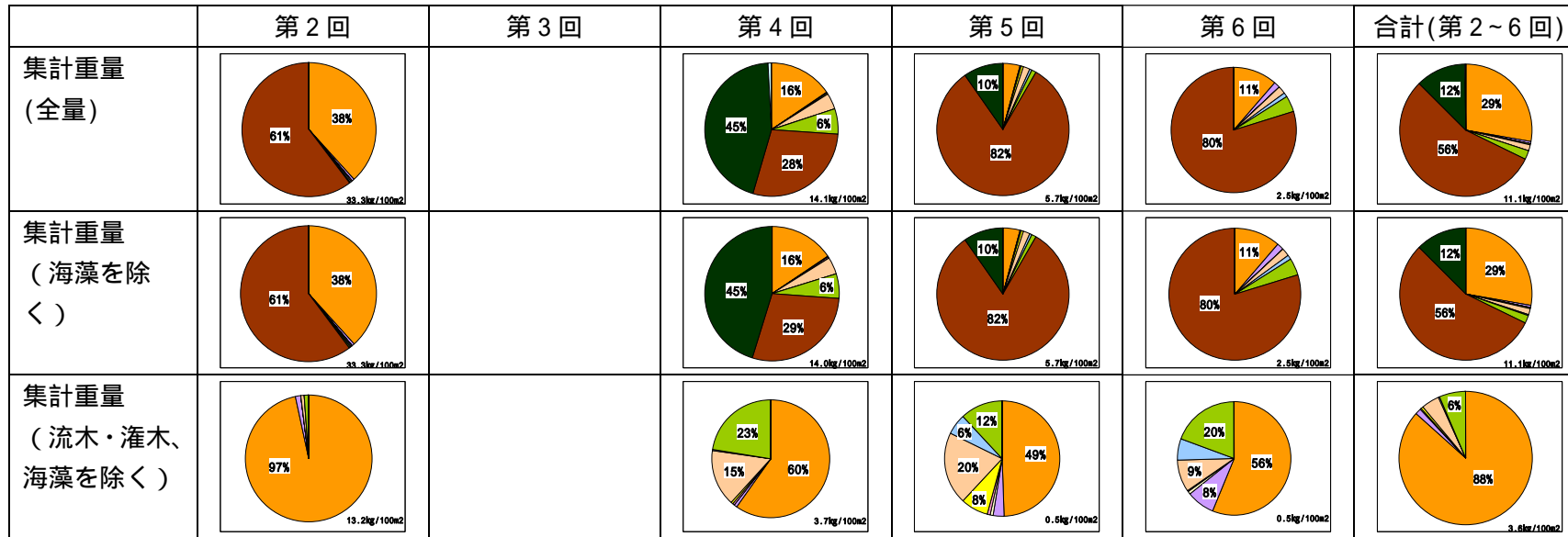
(5) 地点 5

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミの大分類ごとの  
枠内重量比率および容量比率を図 1.2-9、図 1.2-10 に示す。

当海岸(地点 5)は、第 4 回調査には流木が多いが、第 2、5、6 回調査には灌木が多く、  
両方をあわせた自然系で約 6～9 割となった(上段)。

次に、地点 1 と同様の理由で海藻を除いた漂着ゴミで比較を行った。その結果、上記の  
傾向と同様であった(中段)。

更に、地点 1 と同様の理由で海藻以外に流木・灌木を除いた漂着ゴミ(人工物)で比較  
を行った。その結果、各回調査ともは、プラスチック類の占める割合が高くなった(下段)。



凡例

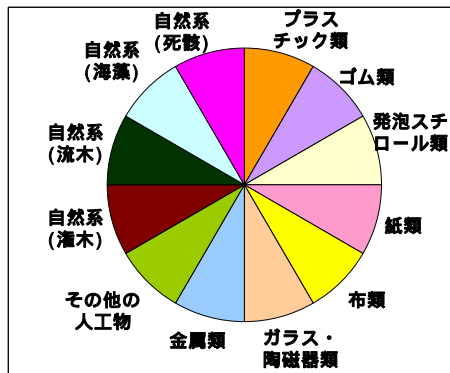


図 1.2-9 重量比率(地点5)



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~6回)
集計容量 (全量)						
集計容量 (海藻を除く)						
集計容量 (流木・灌木、 海藻を除く)						

凡例

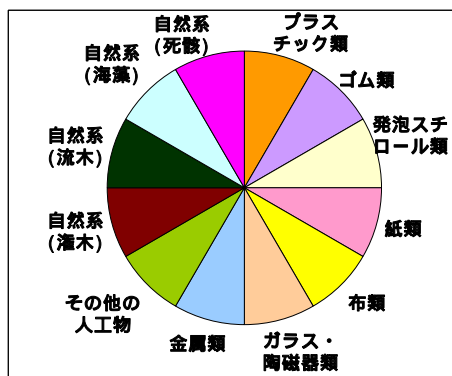


図 1.2-10 容量比率 (地点5)

